

2005年2月1日

1 剤式ヘアブリーチ使用時の不快臭原因を解明 2005年春、男性用ヘアブリーチに応用

株式会社マンダム（本社：大阪市 社長執行役員：西村元延）は、1 剤式ブリーチの使用時における不快臭の原因物質が「ピルビン酸」であることを業界で初めて明らかにし、この不快臭を低減する処方を開発しました。

この研究成果については、共同研究先である高砂香料工業株式会社と3月7～9日にタイ（バンコク）で開催される「第7回アジア化粧品科学者会学術大会」において発表を予定しております。

<1 剤式ヘアブリーチとは>

今やヘアカラーリングはおしゃれの必需品として日常化したといっても過言ではありません。

ヘアブリーチは髪の毛のメラニン色素を酸化分解することにより脱色し、髪の毛の色を明るくするベーシックなヘアカラーリング製品です。ヘアブリーチはその用途に応じたいくつかのタイプがあります。

一般的なタイプは、使用直前にいくつかの薬剤を混合する複剤式のもので、このタイプのものは短時間に髪の毛の色を明るくすることができます。

それに対し、薬剤を混合する必要のない1 剤式タイプのヘアブリーチは複剤式のものにくらべ髪の毛の色を明るくする効果が緩和ではありますが、そのため脱色の程度が調節しやすく、徐々に髪の毛の色を明るくする製品として有用です。このようなことから1 剤式ヘアブリーチは、ヘアカラーリング初心者や、高い脱色効果を望まない方に向けた製品として受け入れられています。

<1 剤式ヘアブリーチの不快臭の解明>

しかしながら1 剤式ヘアブリーチは、使用時に酸味の不快臭を発生するという欠点があります。この不快臭のため、使用を敬遠される方が多くみられます。

この不快臭について研究したところ、1 剤式ヘアブリーチを使用した際、発生する不快臭は頭髪からではなく、液剤のついた頭髪を触った手指や頭皮から発生します。これは解糖系やクエン酸回路等の生体内の代謝経路における重要な中間物質として生成されるピルビン酸が、ヘアブリーチ剤の有効成分である過酸化水素と反応して皮膚上で酢酸を生成し、それが酸味のある不快臭の原因であることを解明しました。

<酢酸臭マスキングに有効な香料>

この酢酸臭をマスキングする効果について数ある香料成分をスクリーニングしたところ、数種類の香料成分が有効であることがわかりました。

2005年2月8日に発売する男性用1 剤式ヘアブリーチ「ギャツビーほんのりブリーチ（医薬部外品）」は、それらの香料の中からジヒドロミルセノール、B-ヨノン、酢酸- α -メチルベンジル等数種香料成分で構成した調合香料を配合することにより、使用時の不快臭を抑えることができました。この技術については共同研究先である高砂香料工業株式会社と特許出願をしております。

以上